

はじめに

今日、核家族化、少子化、地域における人間関係の希薄化などにより、身近な人から子育てを学んだり、ともに助け合いながら子どもを育てたりすることが少なくなってきました。また、地域社会の中で子育ての悩みやしつけの仕方などについて誰にも相談できず、周囲から孤立した子育て家庭への支援も必要となっています。

栃木県では、平成 28 年度から重点戦略「とちぎ元気発信プラン」に基づき、人も地域も真に輝く魅力あふれる元気な“とちぎ”を目指し、施策を展開しています。また、県教育委員会でも、「栃木県教育振興基本計画 2020—教育ビジョンとちぎ—」を策定し、とちぎから世界を見つめ地域とつながり、未来に向かってともに歩み続ける人間の育成を目指し、各種施策に取り組んでおります。これらのプランにおいては、「地域」に視点をあてた施策が大きな柱となっており、地域の活性化、地域の教育力の向上の取組が図られております。

一方、国から平成 29 年 3 月に出された「人々の暮らしと社会の発展に貢献する持続可能な社会教育システムの構築に向けて」の論点整理では、今後の社会教育においては地域コミュニティの維持・活性化に貢献していくことが大きな役割であるとして、社会教育の概念の再整理を打ち出しています。そして、地域住民が解決すべき地域課題とその対応について学習し、その成果を地域づくりの実践につなげていくことが必要とした上で、公民館等での実践と地域住民の主体的参加による地域づくりを進めるべきであるということが示されています。

このような状況の中、平成 29 年度から、県教育委員会では、新たに「地域課題解決型学習推進事業」に取り組み、地域住民が身近な地域課題の解決に向けた取組を行うための支援をとおして、地域のつながりづくりを目指しております。今年度は、地域の大人同士が話し合いをしながら学習を行うことで、気付きによる地域の大人自身の学びに加え、住民同士が交流し合える関係づくりや、地域課題の解決をとおした住民同士のネットワークの構築にもつながる地域課題解決型学習プログラム「地域元気プログラム」を作成しました。本プログラムを活用し、地域において様々な機会での学習が行われ、地域の教育力の向上が図られること、さらに、この学習をきっかけに社会全体で子どもを育む環境づくりが一層進むことを期待しております。

栃木県教育委員会事務局生涯学習課長

鈴木 恵治